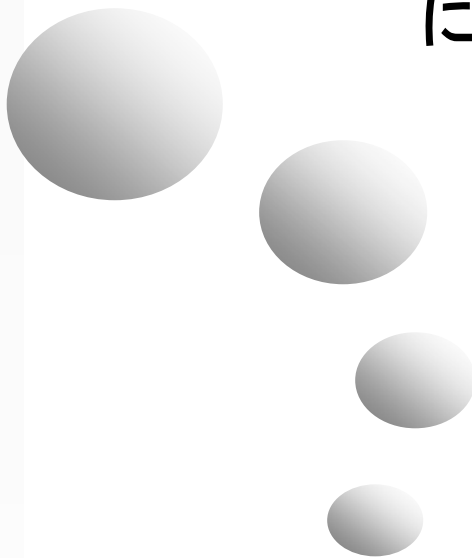


恵み野商店街の活性化と振興計画策定 に向けた検討報告書



平成24年6月

恵み野商店街活性化振興計画策定検討委員会

恵み野商店街の活性化と振興計画策定に向けた検討報告書

目 次

1.	はじめに	1
2.	恵み野商店街の現況と課題	2
	(1) 恵み野地区の概況	2
	① 恵み野地区の人口動態変化	2
	② 恵み野商店街の現況	3
	(2) 恵み野商店街の課題	6
3.	商店街活性化の目標	7
4.	計画実現のための考え方	8
5.	活性化のための具体策	9
6.	商店街活性化実現のためのステップ	10
7.	おわりに	11
	(別冊) 参考資料	
	(1) 恵み野地区のまちづくり・商業の活性化に関するアンケート 調査結果	12
	(2) 検討委員会の会議記録	28
	(3) シンポジウムの開催記録	122

全体の構成

現況と課題

1. 少子高齢化への対応
2. 時代が移りかわっても経営し続ける商店街
3. 商店街と市民・地域とのつながりや知名度の不足

背景

- ・高齢化のスピードが早い傾向
- ・業種が変化し店舗数は維持されている
- ・商店街でイベントなど様々な活動をしている

目標

市民・商店街・行政が協働しながら、少子高齢社会に対応し、時代が移りかわっても「みんながつながる場所」としての恵み野地区、そして、その生活拠点としての商店街を目指す。

計画実現のための考え方

- (1) 恵み野駅を中心とした、少子高齢化にも対応したやさしい・美しい商店街づくり
- (2) いつまでも持続発展する商店街づくり
- (3) 協働した商店街づくり

主な活性化のための具体策

- (1) ・高齢者向けサービスの実施、バリアフリーの実施
・子育て世代への対応
- (2) ・市民ニーズの把握、実践
・商店街組織強化 など
- (3) ・商店街の情報発信、共有
・町内会と商店街の協働の場づくり など

商店街活性化実現のためのステップ

STEP1

- ・マップ、情報誌の製作、発行
- ・地域との協議の場づくり など

STEP2

- ・花壇や植樹帯などの整備、ルールづくり
- ・共通の目玉商品の開発 など

「みんながつながる場所」の実現

1. はじめに

恵み野商店街は「ニュータウン恵み野」の分譲開始以来、30年以上にわたり地域の日常生活を支える公共的空間の役割を担ってきました。しかし、今日の社会経済環境の大きな変化による消費の低迷、少子高齢化の進展、消費者や市民ニーズの多様化などにより、商店街を取り巻く環境が大きく変化し、加えて、郊外への大型商業施設の進出、コンビニエンスストアの浸透などの影響から商店街は停滞傾向にあります。

今日、地域商店街が直面する課題は様々ではありますが、年々、深刻さを増す少子高齢化社会の中であって、あらためて地域コミュニティの担い手として商店街の機能、役割が一層期待されています。このような状況から、個店や商店会、地域住民、行政などそれぞれの主体が知恵を出し合って「自助、共助、公助」の考えの下に、商店街の活性化を地域全体の課題として取り組みを進めていく必要があると考えます。

この報告書（計画素案）は、今後の恵み野商店街の振興と恵み野地域の活性化を図るための方向性を探るため組織された検討組織「恵み野商店街活性化振興計画策定検討委員会」で、委員の協議により取りまとめたものです。

○恵み野商店街活性化振興計画策定検討委員会委員名簿

区分	氏名	区分	氏名
団体	東 秀樹	団体	高野 真一
団体	阿部 亨範	専門学校	竹内 和恵
市民	伊賀崎 淑子	商業者	橘 香央里
有識者	伊勢田 和幸	市民	内藤 京子
商業者	内倉 大輔	専門学校	中山 勝歳
商業者	小笠原 剛	商業者	奈良井 みどり
商業者	川村 由香里	有識者	松本 博樹
市民	小林 克己	市民	松谷 善彦
市民	高木 哲男		(五十音順)

2. 恵み野商店街の現況と課題

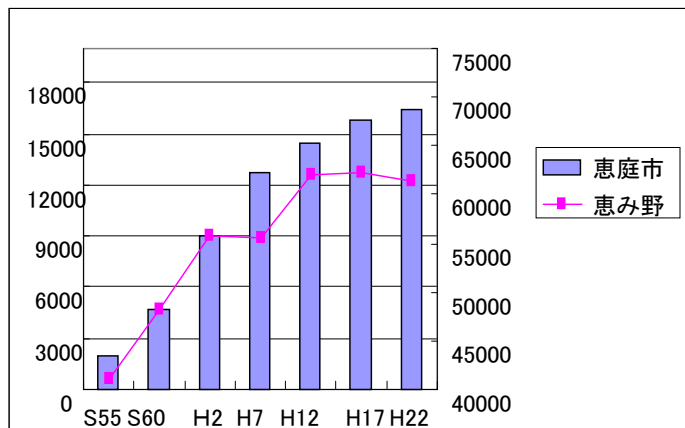
(1) 恵み野地区の概況

① 恵み野地区の人口動態変化

恵み野地区の人口は、平成 17 年の 12,667 人をピークに、わずかながら減少に転じています（図 1、図 2）。また、恵庭市全体と比較すると、高齢化のスピードが恵庭市の平均より早い傾向であることがうかがわれます（図 3、図 4）。

このことから、宅地造成ときに恵み野地区に転入した方の多くが 60～70 歳を迎えられていることが読み取れます。さらに、恵み野地区は人口減少がはじまり、ますます高齢化率が高くなることが予測されます。

■ 図 1 恵庭市と恵み野の人口の推移

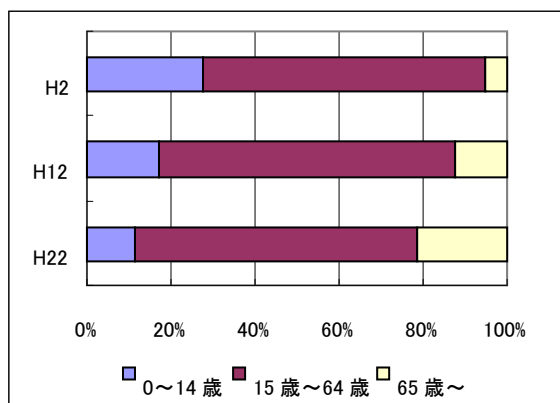


■ 表 1 恵庭市と恵み野地区の人口推移 単位：人

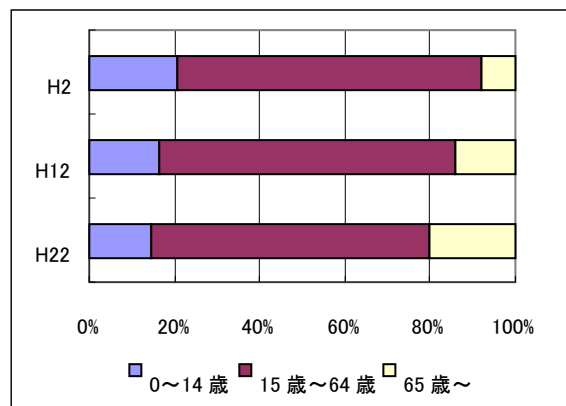
	恵庭市全体	恵み野地区
昭和 55 年	43,532	567
平成 2 年	55,813 (8.1%)	8,986 (5.0%)
平成 12 年	65,240 (14.2%)	12,542 (12.4%)
平成 17 年	67,614 (17.5%)	12,667 (16.0%)
平成 22 年	68,809 (20.5%)	12,249 (21.5%)

※カッコ内は 65 歳以上の割合

■ 図 2 恵み野地区の世代構成の変化



■ 図 3 恵庭市全体の世代構成の変化



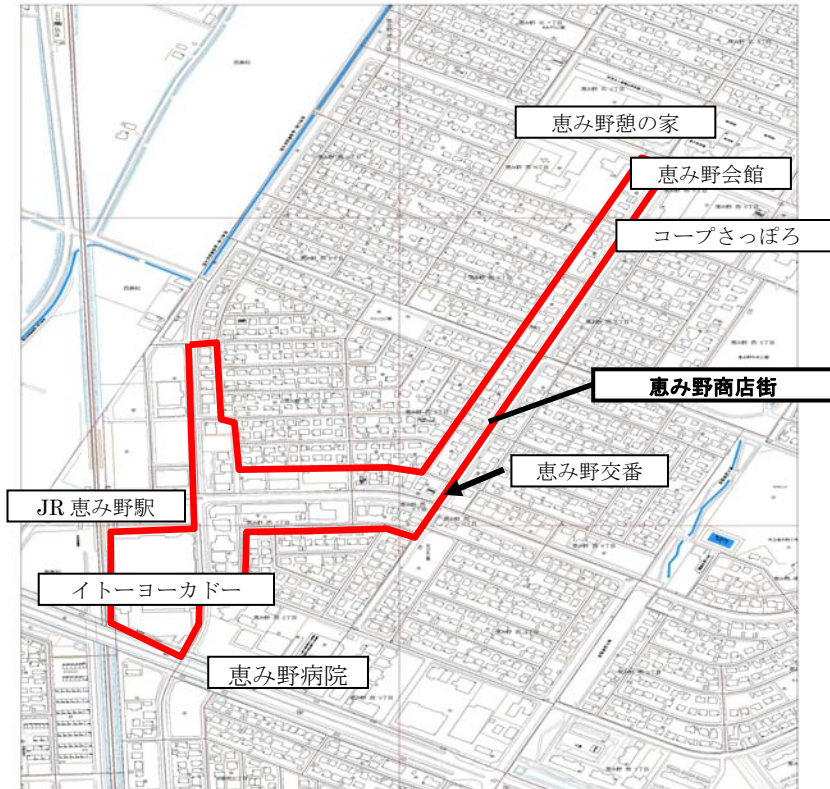
※資料：国勢調査（恵庭市全体）、住民基本台帳（恵み野地区）

②恵み野商店街の現況

恵み野商店街には、約80店舗があり、業種としては比較的飲食業やサービス業などの店舗が多くを占めているという特徴があります（図5）。

また、任意組織の恵み野商店会があり、平成23年時点で58の店舗が加盟し、夏まつり、冬まつりや歳末の現金つかみ取りセールといったイベントやさまざまな活動をしています。

■図4 恵み野商店街の位置



■表2 恵み野商店街の業種変遷(H2、H22)

業種分類	店舗数			店舗の入れ替わり		
	H2	H20	増減	撤退	継続	新規
総計	59	77	18	28	31	46
小売り業 (総合小売・衣類・靴・身の回り品など)	28	21	-7	14	14	7
外食業 (ファーストフード・料理・喫茶店・居酒屋など)	15	21	6	10	5	16
サービス業 (クリーニング・理容・美容・学習塾など)	16	35	19	4	12	23

■表3 恵み野商店街の現在(H23)の業種

病院・薬局	16	理容・美容	13
飲食店	24	衣料品店	2
学習塾	8	本屋	1
物販	2	家電店	1
生鮮食料品	1	パチンコ等	3
事務所	11	その他	19

(恵庭市調べ)

恵み野商店街の現況や課題については、各種調査などで次のような声があがっています。

○商店主側の意見

■ 恵庭市商店街実態調査（注-1）からの主な意見

- ・5年前、10年前と比較して売上や客数が減少傾向にある。
- ・大型店進出に対しては、サービスの強化や顧客管理、接客、PR、経営管理の向上を対策として考えている。
- ・ハード面の課題としては駐停車スペースや花壇・植樹帯などの整備がある。
- ・ソフト面の課題としては個人経営のレベルアップ、空き店舗対策、情報の発信がある。

（注-1）「恵庭市商店街実態調査」⇒平成19年に恵庭市内の7つ（当時）の商店街（会）を対象にしたアンケート調査。回答率は59.6%であった。

■ 現在の恵み野商店会からの主な意見

（良い点）

- ・イベント（注-2）は20年以上続けており、地域のイベントとして定着している。
- ・新規の出店者もあり、若い商業者も増えている。
- ・「花のまち」のブランドが確立され観光客が増えた。
- ・店舗前の植樹マスに自主的に花を植え綺麗にしている。

（課題）

- ・団地分譲が始まって以来30年以上が経過し、地域住民の高齢化が進んでいる。
- ・商業者自身が高齢化していることから、「営業+居住」のスタイルから、「居住」のみの空き店舗となっていくことが懸念される。
- ・時代と共に変化する消費者ニーズへの対応をどうするか。
- ・学生や観光客などの良い資源はあっても、交流がほとんど無く、これらの資源を活かしきる仕組みができていない。
- ・歩道の老朽化、店舗前に駐停車スペースが無く買い物に不便を感じる消費者も多い。
- ・イベントを通じて店主の人柄や商店街を知ってもらおう仕組みができていない。

※第5回検討委員会での商店会からの発表より

（注-2）現在恵み野商店街で行っているイベントとしては、「花さんぽストリート祭」（6月下旬～7月上旬）、恵み野夏祭り（7月）、冬祭り（2月）、歳末賑わい事業（12月）などがある。



○市民の主な意見

(商店街に関する意見)

- ・ちょっとした車を停める場所が必要。
- ・お店の敷居が高く感じる。
- ・お客様の利便性の向上（買いものなど）に努めるべき。
- ・増加している高齢者に役立つ商店街づくりが必要。
- ・地元のもの（野菜、特産物など）を活かしたお店づくり。
- ・商店街の街路の歩きやすさや明るさの向上。
- ・商店街のイメージの向上、セールやイベントの充実。
- ・魅力ある店づくり（特に高齢者にとって）

(今後の生活一般に関する意見)

- ・高齢化が進んでいる。
- ・自分が高齢となり、独り暮らしになった時の生活に不安がある（買い物など）
- ・歩道の凸凹がひどい、街路が暗い。
- ・樹木が生い茂り看板が見えにくくなっている。
- ・空き地や空き店舗が増えることが予測される。

※「恵み野地区のまちづくり・商業の活性化に関するアンケート」（平成23年度実施）の回答より

○学生グループインタビュー（注-3）での主な意見

- ・商店会でイベントをやっているのを知らないし、あれば多くの友達を呼ぶことができる。
- ・「花のまち」にしては花は少ない。
- ・住みやすいが、遊ぶところが少ない。
- ・お店を紹介するマップがあればよい。
- ・お店の対応に工夫がほしい（料金表示、クーポン、飲み放題、バイキング、お店の人との交流）。
- ・お店の種類が少ない（商店街に安くて美味しいお店がほしい）。
- ・夜の商店街が暗いため、外出しづらい。

(注-3)「学生グループインタビュー」⇒平成23年11月25日に、日本福祉リハビリテーション学院及び北海道エコ・コミュニケーション専門学校の学生（各5名）にグループインタビューを実施した。

○検討委員会での主な意見

- ・商店会が何を考えていて、どのような課題を持っているか地元の市民に伝わっていない。
- ・町内会と商店会の議論が足りない、各商店の名前が知られていないなど、地域との連携に課題がある。
- ・市民のニーズ（魅力あるお店、高齢化に対応したお店）や時代の変化に商業者がどう対応していくか。
- ・公共施設の整備（道路・歩道照明など）を含めた商店街の環境づくり。
- ・ちょっと車を停めるスペースの確保。
- ・恵庭市として3駅中心のコンパクトシティに向けた取り組みを進めている中で、この恵み野商店街をどう位置づけるか。

(2) 恵み野商店街の課題

これらの結果から、検討委員会として次の3点を「恵み野商店街の課題」として整理しました。

課題-1	■ 少子高齢化への対応について
	<ul style="list-style-type: none">①高齢者向けの商品・サービスの充実が望まれる②高齢者や身体が不自由な方にも安全で安心して買い物ができるような商店街の環境（歩道の整備など）が望まれる③商店街利用を促進する便利さ（駐車場整備や街路整備など）が望まれる④子育て世代のニーズに対応した商品・サービスの充実が望まれる

課題-2	■ 時代が移り変わっても持続する商店街であることについて
	<ul style="list-style-type: none">①時代の変化、地域ニーズの変化に対応した商業・サービスの提供が望まれる②事業者が自立的、具体的に魅力ある店づくりに取り組み意欲と商店街を支える地域の協力が望まれる③空き店舗が出て、新たな「お店の担い手」が生まれるような商店街の魅力と仕組みづくりが望まれる

課題-3	■ 商店街と市民・地域とのつながりについて
	<ul style="list-style-type: none">①商店街にどんな店舗があるのか、どんなイベントがあるのかなど、商店街の情報発信の充実・強化が望まれる②市民から支持される魅力的な個店づくり、個性づくりへの努力が望まれる③情報発信、イベント運営など多様な分野で商店街と市民・地域のつながり、連携を強めることが望まれる④若い力（専門学校など）を商店街の活力づくりに活かすことが望まれる

3. 商店街活性化の目標

恵み野商店街の活性化を実践の段階として捉えていくためには、具体的にどのような商店街を目指すのかを具体的にイメージする必要があります。検討委員会で整理した恵み野商店街の課題の解決を目指すために、検討委員会としての目標を次のとおり設定します。

市民・商店街・行政が協働しながら、少子高齢社会に対応し、
時代が移りかわっても
「みんながつながる場所」としての恵み野地区、
そして、
その生活拠点としての商店街を目指す。



4. 計画実現のための考え方

3で掲げた目標の実現のためには、次の考え方が重要になると考えます。

(1) 恵み野駅を中心とした、少子高齢化にも対応したやさしい・美しい商店街づくり

- ・少子高齢化が進む中、高齢者や親子連れが気持ちよく利用できる商店街であることが求められています。
- ・市民の日常生活を支える地域コミュニティの担い手として、人にやさしく、美しい商店街であることが求められています。
- ・「花のまち」としてのイメージが定着している魅力を最大限に活かしながら、新規出店者が恵み野で出店したいと思えるようなまちであることが必要です。

(2) いつまでも持続発展する商店街づくり

- ・仮に空き店舗ができて、新規出店者が恵み野で出店したいと思える商店街づくりの方法を考え、時代が変わっても生き活きとあり続ける商店街が求められています。
- ・魅力的な商店街、そこから魅力的なまちになっていくことは、住民にとって価値があることであり、そのことが恵み野のブランドになります。

(3) 協働した商店街づくり

- ・商店や商店街組織（商店会）の自ら行う取り組み（自助）、地域住民や町内会などと連携して行う取り組み（共助）、行政の支援を受けて行う取り組み（公助）という考え方のもと、計画を具体的な取り組みにつなげていきます。
- ・商店街は商店だけでは成立しません。市民がいなければ商店街として成り立たず、そこに行政を加えた三者で、さらにまちの継続性が保たれるものです。

5. 活性化のための具体策

恵み野商店街の活性化のために6ページ、2-(2)の課題をもとに具体的な施策を整理しました。

(1) 商店街を中心とした、少子高齢化に対応したやさしい・美しい商店街作り

課題1	何を誰が	具体策		
		商店・商店街	地域	行政支援
少子高齢化への対応	取り組み			
	①高齢者向けサービスの実施	・電話注文による宅配などの個人向けサービス ・空き店舗の活用によるふれあいサロンの設置		・設置に係る行政支援
	②バリアフリーの拡充	・店舗のバリアフリー化（段差解消、トイレの改修、自動ドアの設置など）		・歩道のバリアフリー化
	③子育て世代への対応拡充	・子育て世代のニーズにあった商品やサービスの充実		

(2) いつまでも持続発展する商店街づくり

課題2	何を誰が	具体策		
		商店・商店街	地域	行政支援
時代が変わっても経営し続ける商店街	取り組み			
	①市民ニーズの把握、実践	・商店街と地域住民の協議の場づくり ・市民ニーズアンケート調査等の実施		
	②魅力ある個店づくり	・経営の勉強会や研修などの実施		・勉強会、研修実施への支援
		・魅力あるイベント・セールの実施 ・年齢層に合った店づくり、誘致		
		・商店街共通の目玉商品の開発		・商品開発に係る情報の提供や開発の支援
	③商店会組織の強化	・店同士の情報の共有、会報発行 ・商店会会員の勧誘 ・先進事例などの勉強会 ・他店との一部商品の共同販売		
④店舗空間の見直し、歩道整備など快適な空間づくり	・販売、店舗運営技術の向上（レイアウトの研修や勉強会、品揃え、照明・レイアウト見直しなど） ・イルミネーションの取り組み		・歩道照明の設置、歩道の改修	
	・駐停車スペースのルールづくりの検討			
⑤空き店舗対策			・新規出店支援 ・空き店舗情報の提供	

(3) 協働した商店街づくり

課題3	何を誰が	具体策		
		商店・商店街	地域	行政支援
商店街と市民・地域とのつながりや知名度の不足	①商店街の情報発信、共有	・商店街マップ、情報誌の発行 ・インフォメーションセンターの設置		・広報等による情報発信 ・広告宣伝等の支援
		・インターネットを活用したPR	住民による個人ブログ等での商店街の情報発信協力	
	②交流、イベントの活性化	・お祭りなどのイベントの共同開催 ・地域住民、学生のイベント参加を促進（商店街にフリーブース設置等） ・商店街、学校等との相互パンフレット配布連携 ・地域交流教室、体験 ・季節を感じるイベントの開発		・助成金による側面支援
③町内会と商店街の協働・連携	・花壇の植栽やルールづくり		・街路樹の整備	
	・商店街、地域の連携する組織の設置			

6. 商店街活性化実現のためのステップ

ここまで挙げた具体的な取り組みは一度に実現できるものではありません。計画的に実現するために、検討委員会では以下のように実現のためのステップとして整理しました。

<p>STEP1</p> <p>早急に着手・実行すること (主なもの)</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>町内会と商店街の協働・連携</td> <td>○商店街、地域の連携する組織の設置 ○花壇の植栽やルールづくり、街路樹の整備</td> </tr> <tr> <td>交流、イベントの活性化</td> <td>○お祭りなどのイベントの共同開催 ○地域住民、学生のイベント参加を促進 ○商店街、学校等との相互パンフレット配布連携</td> </tr> <tr> <td>市民ニーズの把握、実践</td> <td>○商店街と地域住民の協議の場づくり ○市民ニーズアンケート調査等の実施</td> </tr> <tr> <td>魅力ある個店づくり</td> <td>○経営の勉強会や研修などの実施 ○魅力あるイベント・セールの実施、年齢層に合った店づくり、誘致 ○商店街共通の目玉商品の開発</td> </tr> <tr> <td>バリアフリーの拡充</td> <td>○歩道のバリアフリー化</td> </tr> <tr> <td>高齢者向けサービスの実施</td> <td>○電話注文による宅配などの個人向けサービス</td> </tr> <tr> <td>商店街の情報発信、共有</td> <td>○インターネットを活用したPR、広報等による情報発信 ○商店街マップ、情報誌の発行・製作</td> </tr> <tr> <td>店舗空間の見直し、歩道整備など快適な空間づくり</td> <td>○駐停車スペースのルールづくりの検討</td> </tr> </tbody> </table>	町内会と商店街の協働・連携	○商店街、地域の連携する組織の設置 ○花壇の植栽やルールづくり、街路樹の整備	交流、イベントの活性化	○お祭りなどのイベントの共同開催 ○地域住民、学生のイベント参加を促進 ○商店街、学校等との相互パンフレット配布連携	市民ニーズの把握、実践	○商店街と地域住民の協議の場づくり ○市民ニーズアンケート調査等の実施	魅力ある個店づくり	○経営の勉強会や研修などの実施 ○魅力あるイベント・セールの実施、年齢層に合った店づくり、誘致 ○商店街共通の目玉商品の開発	バリアフリーの拡充	○歩道のバリアフリー化	高齢者向けサービスの実施	○電話注文による宅配などの個人向けサービス	商店街の情報発信、共有	○インターネットを活用したPR、広報等による情報発信 ○商店街マップ、情報誌の発行・製作	店舗空間の見直し、歩道整備など快適な空間づくり	○駐停車スペースのルールづくりの検討
町内会と商店街の協働・連携	○商店街、地域の連携する組織の設置 ○花壇の植栽やルールづくり、街路樹の整備																
交流、イベントの活性化	○お祭りなどのイベントの共同開催 ○地域住民、学生のイベント参加を促進 ○商店街、学校等との相互パンフレット配布連携																
市民ニーズの把握、実践	○商店街と地域住民の協議の場づくり ○市民ニーズアンケート調査等の実施																
魅力ある個店づくり	○経営の勉強会や研修などの実施 ○魅力あるイベント・セールの実施、年齢層に合った店づくり、誘致 ○商店街共通の目玉商品の開発																
バリアフリーの拡充	○歩道のバリアフリー化																
高齢者向けサービスの実施	○電話注文による宅配などの個人向けサービス																
商店街の情報発信、共有	○インターネットを活用したPR、広報等による情報発信 ○商店街マップ、情報誌の発行・製作																
店舗空間の見直し、歩道整備など快適な空間づくり	○駐停車スペースのルールづくりの検討																
<p>STEP2</p> <p>中・長期的に着手・実行すること (主なもの)</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>交流、イベントの活性化</td> <td>○地域交流教室、体験、季節を感じるイベントの実施</td> </tr> <tr> <td>バリアフリーの拡充</td> <td>○店舗のバリアフリー化（段差解消、トイレの改修、自動ドアの設置など）</td> </tr> <tr> <td>高齢者向けサービスの実施</td> <td>○空き店舗の活用によるふれあいサロンの設置</td> </tr> <tr> <td>商店街の情報発信、共有</td> <td>○インフォメーションセンターの設置</td> </tr> <tr> <td>店舗空間の見直し、歩道整備など快適な空間づくり</td> <td>○販売、店舗運営技術の向上（レイアウトの研修や勉強会、品揃え、照明・レイアウト見直しなど） ○イルミネーションの取り組み ○歩道照明の設置、歩道の改修</td> </tr> <tr> <td>商店会組織の強化</td> <td>○店同士の情報の共有、会報発行、商店会会員の勧誘 ○先進事例などの勉強会 ○他店との一部商品の共同販売</td> </tr> <tr> <td>子育て世代への対応拡充</td> <td>○子育て世代のニーズにあった商品やサービスの充実</td> </tr> <tr> <td>空き店舗対策</td> <td>○新規出店支援、空き店舗情報の提供</td> </tr> </tbody> </table>	交流、イベントの活性化	○地域交流教室、体験、季節を感じるイベントの実施	バリアフリーの拡充	○店舗のバリアフリー化（段差解消、トイレの改修、自動ドアの設置など）	高齢者向けサービスの実施	○空き店舗の活用によるふれあいサロンの設置	商店街の情報発信、共有	○インフォメーションセンターの設置	店舗空間の見直し、歩道整備など快適な空間づくり	○販売、店舗運営技術の向上（レイアウトの研修や勉強会、品揃え、照明・レイアウト見直しなど） ○イルミネーションの取り組み ○歩道照明の設置、歩道の改修	商店会組織の強化	○店同士の情報の共有、会報発行、商店会会員の勧誘 ○先進事例などの勉強会 ○他店との一部商品の共同販売	子育て世代への対応拡充	○子育て世代のニーズにあった商品やサービスの充実	空き店舗対策	○新規出店支援、空き店舗情報の提供
交流、イベントの活性化	○地域交流教室、体験、季節を感じるイベントの実施																
バリアフリーの拡充	○店舗のバリアフリー化（段差解消、トイレの改修、自動ドアの設置など）																
高齢者向けサービスの実施	○空き店舗の活用によるふれあいサロンの設置																
商店街の情報発信、共有	○インフォメーションセンターの設置																
店舗空間の見直し、歩道整備など快適な空間づくり	○販売、店舗運営技術の向上（レイアウトの研修や勉強会、品揃え、照明・レイアウト見直しなど） ○イルミネーションの取り組み ○歩道照明の設置、歩道の改修																
商店会組織の強化	○店同士の情報の共有、会報発行、商店会会員の勧誘 ○先進事例などの勉強会 ○他店との一部商品の共同販売																
子育て世代への対応拡充	○子育て世代のニーズにあった商品やサービスの充実																
空き店舗対策	○新規出店支援、空き店舗情報の提供																

7. おわりに

これまで検討委員会では、全6回の協議を通じ商店街の活性化に向けた様々なアイデアが提案されました。その一例として、各個店の魅力度アップ、地域と連携したイベント開催、空き店舗の有効活用、歩道のバリアフリー化や店舗前の駐車場、街路灯の整備などが示されております。

恵み野商店街を、この検討委員会の報告書が活かされた「みんながつながる場所」にしていくために、商店街と地域・行政が一体となり、それぞれ自らができることを積極的に取り組んでいく必要があります。

今後においては、報告書に示した事柄について、「自助・共助・公助」の考え方を元に、それぞれの立場から、また、協働による取り組みを通して具現化されることを期待するものです。

平成24年6月27日
恵み野商店街活性化振興計画策定検討委員会
会長 小林 克己